

脱原発シリーズ！ No.5

3月11日以降、世界は変わった！

福島原発事故から8ヶ月が過ぎようとしています。当初、地震、津波、原発事故に襲われた人たちは、その後、風評被害、豪雨、台風にまで襲われ、今も苦しみを続けています。

福島、宮城、茨城だけではなく東京に住む母親の母乳からもセシウムが検出されました。福島、埼玉の子供の尿からはセシウムが検出されました。原子力安全委員会が福島県いわき市、川俣町、館館村の子供も約1000人を調査したところ、45%の子供が甲状腺に被爆をしていました。福島産の農作物だけではなく、福島から300キロ離れている神奈川県のお茶も汚染されていました。内部被爆した牛が市場に出回り、全国で消費されていることも判明しました。東日本の各地では、過去にない高度の放射線量が確認されています。3月11日以降、世界は変わってしまいました。

反核・反原発・反差別の立場を明確に！

大阪に住む私たちは放射能汚染の実態を知らないのか、知ってても見て見ぬふりをしているのか、「放射能に怯えながら生きていくよりは、これまでの通りの生活を送る方が幸せだ」と考えている人さえ存在します。

事故を起こした最大の責任者である政府、東京電力は、何とか事故・被害を小さく見せようと必死です。電力会社から多額な広告費をもらっているマスコミも、研究費をもらっている原子力学界の専門家たちも、これから始まる悲劇については語りません。

これまで政府と東京電力がマスコミを使ってウソや隠蔽を繰り返してきたことは、みなさんもお承知だと思います。それでも、まだまだ楽観的な見通しを持っている人が多いのではないのでしょうか？

これから10年、20年後、福島だけではなく日本の子供たちには癌や白血病が多発する可能性が多くなりました。政府や電力会社の「安全神話」に騙されてきた大人には騙された責任があります。多大な電力を浪費し、贅沢の限りを尽くしてきた者としての責任は重大です。しかし、子供たちには何の罪もありません。

放射能に汚染されてしまった現実の中で。今後、私たちはいかに生きるのかを明確にしなければなりません。

私たち東海労は反核・反原発・反差別の立場を明確にします。そして、今回の事故を忘れずに、間違いを繰り返さないために皆さんに発信し続けます。